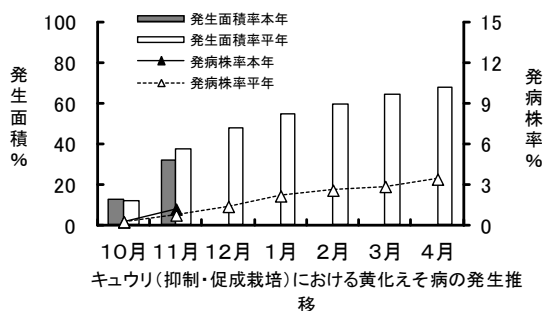


平成25年12月3日

高知県病害虫発生予察11月月報及び予報第9号(12月) 野菜類ダイジェスト版

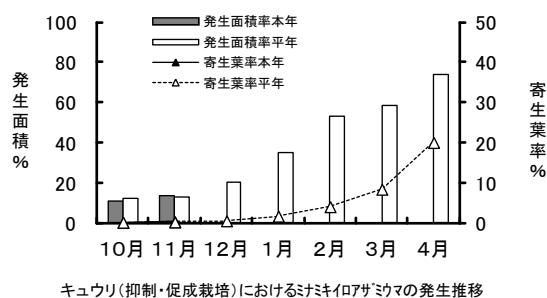
● 抑制・促成キュウリ(中央部・中西部・西部)

黄化えそ病 発生量: 平年並



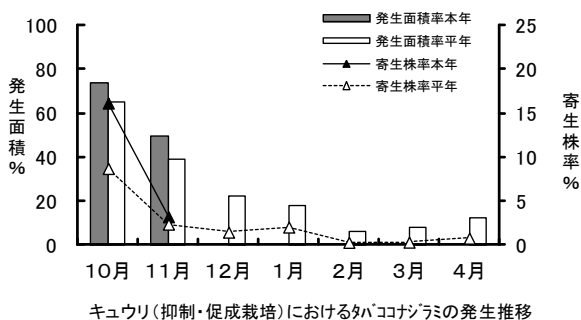
黄化えそ病は平年並の発生です。しかし、既発ほ場では増加傾向にあり、今後も発生面積は徐々に増加するものと思われます。発病株は伝染源となることから早期除去に努め、媒介虫のミナミキイロアザミウマの防除に努めてください。

ミナミキイロアザミウマ 発生量: 平年並



ミナミキイロアザミウマは、平年並の発生です。生長点部にいる場合は見つけにくく、薬剤もかかりにくいことや、密度が高くなると防除が困難になることから、初期防除の徹底及び丁寧な薬剤散布を心がけてください。

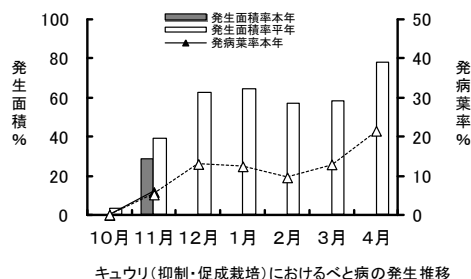
タバココナジラミ 発生量: 平年並



タバココナジラミは密度が急増しやすいので、初期防除に努めてください。

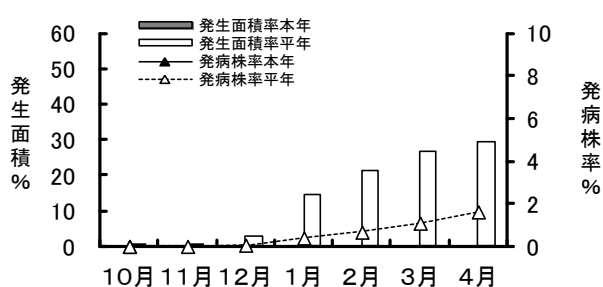
本虫が媒介する退緑黄化病(CCYV)の発生は全体的に少ない傾向ですが、中位葉が黄化する異常な株がみられましたら、感染の有無を確認しましょう。

べと病 発生量: やや少



べと病は全般にやや少ない発生となっています。本病は蔓延すると、薬剤散布による防除が困難となりますので、早めに発見して防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

つる枯病 発生量: 少



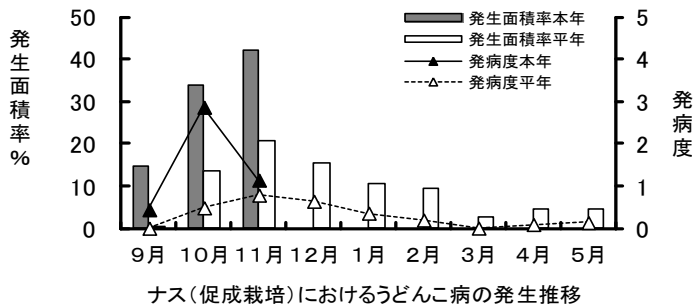
平年に比べ少ない発生となっていますが、本病は、蔓延後の薬剤散布による防除は困難となりますので、早めに発見し、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

平成25年12月3日

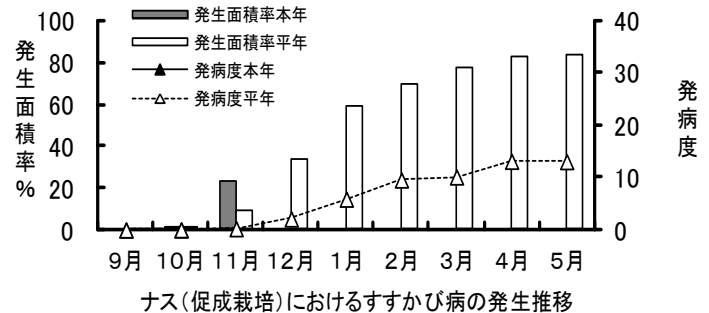
高知県病害虫発生予察11月月報及び予報第9号(12月) 野菜類ダイジェスト版

● 促成ナス(東部・中央部・西部)

うどんこ病 発生量: やや多



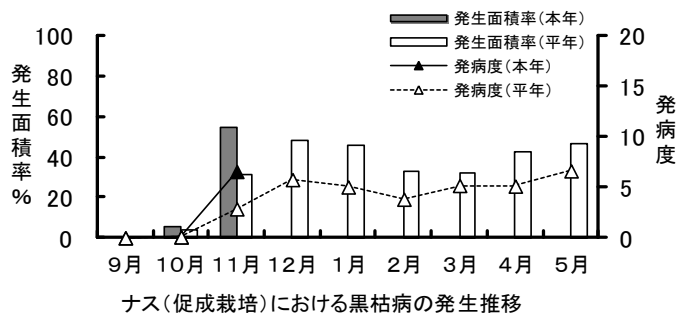
すすかび病 発生量: 多



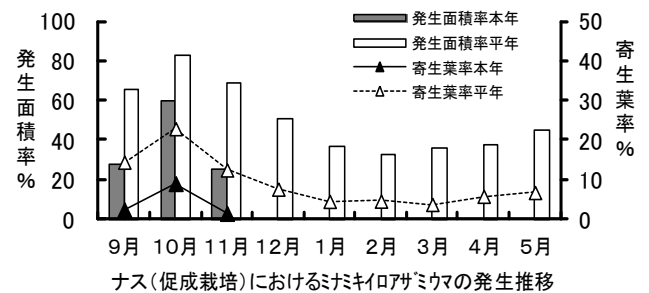
県東部と中央部で発生が多くなっていますが、先月より発生程度は低くなっています。今後の気象が低温気味で、晴天が続くと予想されていることから、病勢の進展に注意し、早期に防除を行ってください。

県東部で多発生、中央部でやや多発生です。今後の気象予想から発病を助長する要因は少ないですが、例年12月より発生が急増しますので、病勢の進展には十分ご注意ください。

黒枯病 発生量: やや多



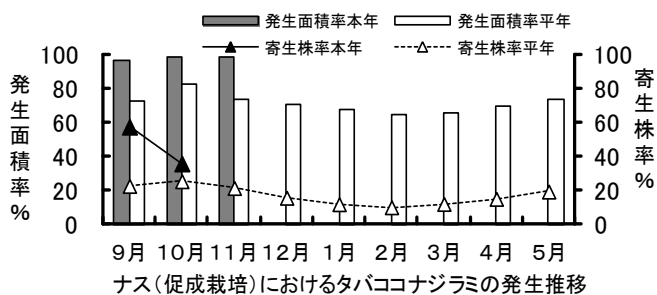
ミナキイロアザミウマ 発生量: 少



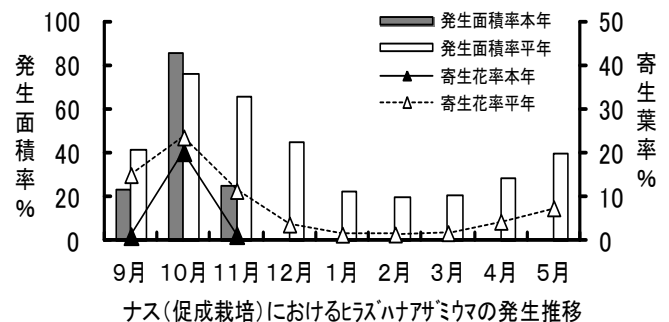
県全域で、発生程度は高くないものの、発生面積が多くなっています。今後の気象予報では、気温が低い状態が続く、晴天日が多くなるとの予想です。発生を助長する気象条件ではないと思いますが、今後の病勢の進展に注意してください。

県全域で少発生です。今後は低温傾向が続くことが予想され、急激な密度の増加はないと予想されます。天敵を放飼しているほ場で、本虫の密度が高いほ場では、選択性殺虫剤等での防除が必要になります。

タバコナジラミ 発生量: 多



ヒラズハナアザミウマ 発生量: 少



現在、県全域で発生面積が多くなっていますが、寄生密度は低く、天敵導入ほ場では成虫がわずかに見える程度の発生です。本虫は増加が早いので、微生物製剤や選択性殺虫剤等での防除により高密度にならない様子を気をつけてください。

県全域で少発生です。今後も急激な密度の増加はないと思いますが、発生をよく観察し、初期防除に努めてください。天敵導入ハウスでは薬剤の選定に留意してください。

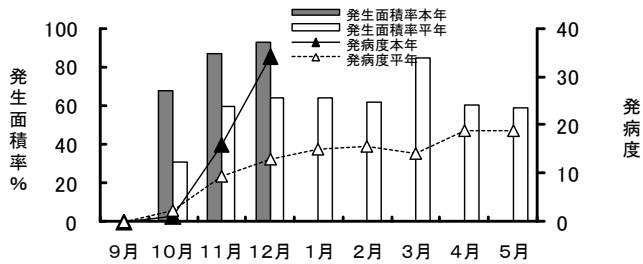
平成26年1月7日

高知県病害虫発生予察12月月報及び予報第10号(1月)

野菜類ダイジェスト版

● 促成ピーマン(東部・中央部・中西部)

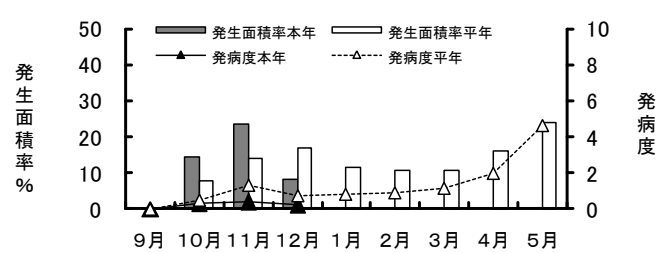
うどんこ病 発生量: やや多



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

県西部で多発傾向、全般的にもやや多発生となっている。向こう1ヶ月予報では気温、降水量ともに平年並と予想されることから、今後も現在の発生状況が続くと思われる。蔓延すると防除が困難になるので、予防散布及び初期防除に努めてください。硫黄くん煙剤の効果が不十分な場合は使用時間を検討してください。

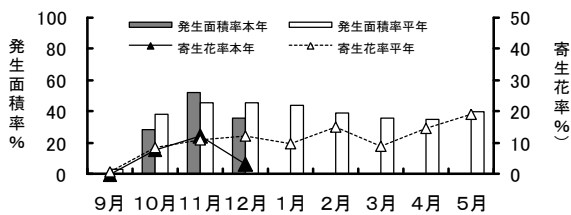
黒枯病 発生量: 少



ピーマン・シシトウ(促成栽培)における黒枯病の発生推移

全般的に少発生となっています。向こう1ヶ月予報からは、急激な病徴の進展はないと考えられますが、蔓延すると防除が困難になるので、予防散布及び初期防除に努めてください。散布の際は下葉や葉裏へのかけ残しのないように丁寧に散布してください。

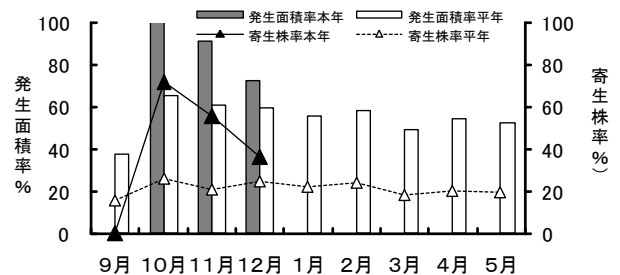
ミナミキイロアザミウマ 発生量: やや少



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるミナミキイロアザミウマの発生推移

西部でやや発生が多いものの、全般的にはやや少発生で、今後も現在の状況で推移すると思われます。初期防除を徹底するとともに、薬剤のローテーションを行い抵抗性の発達を回避してください。なお、天敵導入の場合は天敵への影響を十分考慮して使用薬剤を選定してください。

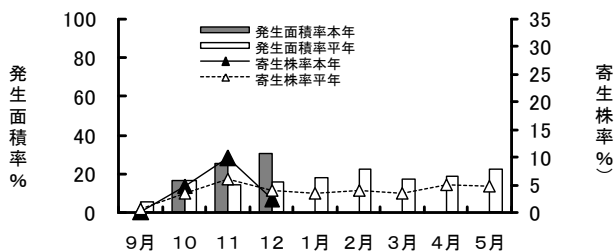
タバココナジラミ 発生量: 平年並



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

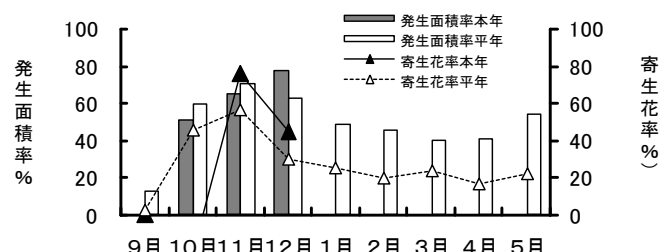
全体的に平年並の発生傾向ですが、ほとんどが成虫の発生が見られる程度です。スワルスキーカブリダニがほとんどのほ場で導入され、定着が進んでいます。スワルスキーの定着の悪い場合には、初期防除に努めてください。防除に際しては天敵への影響を十分考慮して薬剤を選定してください。

アブラムシ類 発生量: 多



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるアブラムシ類の発生推移

ヒラズハナアザミウマ 発生量: 平年並



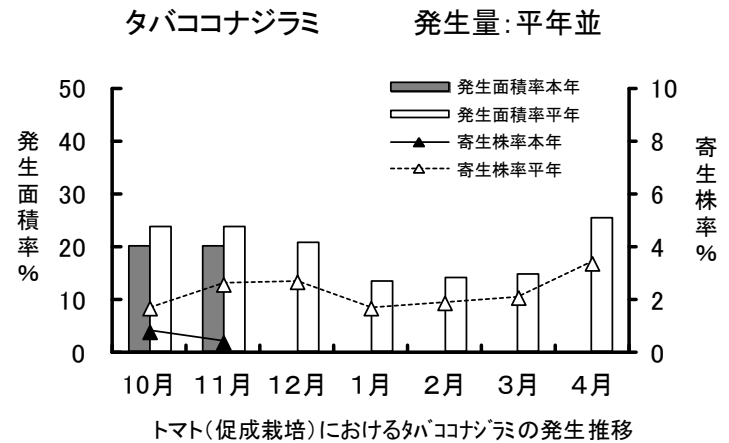
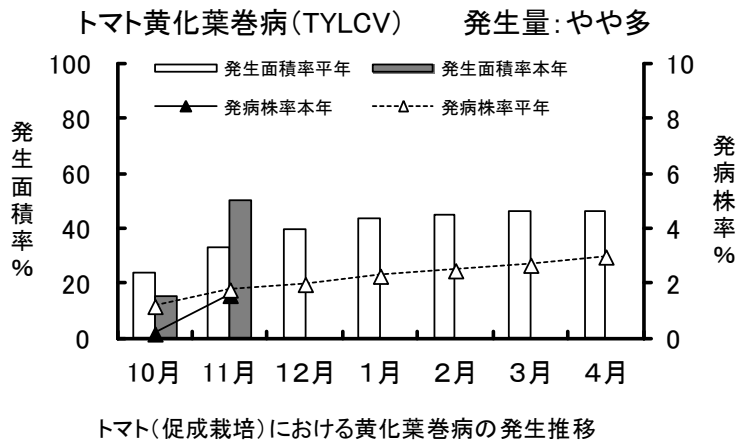
ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるヒラズハナアザミウマの発生推移

アブラムシ類は県中央部から西部にかけて多発傾向で、ワタアブラムシが主体です。一部でモザイク病の発生も見られています。アブラムシによる媒介に注意し、感染株は早めに除去しましょう。ヒラズハナアザミウマは全般的に平年並の発生です。いずれも密度が高くなると防除が困難となりますので、低密度時からの防除に心がけてください。天敵導入ハウスでは、天敵の定着までは薬剤の散布は極力控え、散布する場合は影響の少ない農薬を選定しましょう。また、農薬だけでなく粘着資材等による物理的防除も実施しましょう。

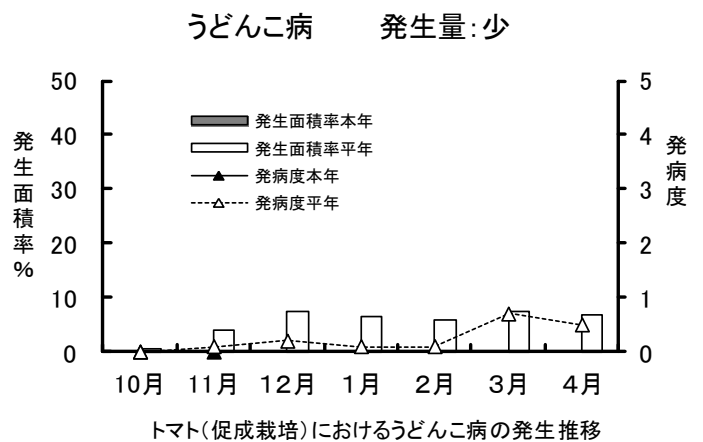
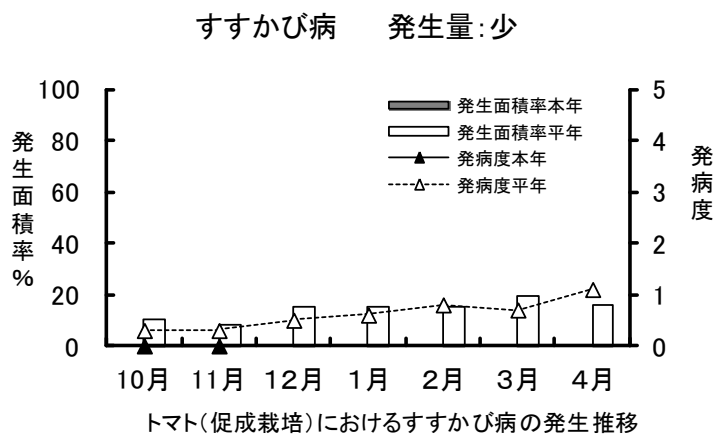
平成25年12月3日

高知県病害虫発生予察11月月報及び予報第9号(12月) 野菜類ダイジェスト版

● 促成トマト(中央部)



現在、黄化葉巻病はやや多、媒介虫であるタバココナジラミは平年並の発生です。タバココナジラミについては有効薬剤のローテーション使用によって、寄生密度の低減に努めてください。



すすかび病、うどんこ病ともに少発生となっていますが、天候次第では一気に病勢が伸展する場合がありますので、注意してください。